

小田原高校における英語の授業改善の取組について ～外部専門機関と連携した英語指導力向上事業～

小田原高校は、平成 29～30 年度に「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」に取り組んだ。平成 29 年度は、話す力の向上を目指し、Reproduction、Retelling、Summary Writing を一連の流れとした授業を 2 年次で行った。平成 30 年度は「やり取り」の力を育成するために、1 年次の授業で Retelling に取り組むとともに、日常生活について「やり取り」をする帯活動 “How was your weekend?” を行った。その結果、GTEC の Speaking Test のスコアが前年度生より約 11 ポイント向上した。

小田原高校では、平成 29～30 年度に「外部専門機関と連携した英語指導力向上事業」に取り組み、久保野雅史教授（神奈川大学）、村越亮治専任講師（国際言語文化アカデミア）の助言のもとで、英語教員の指導力向上に取り組んだ。

大学入試の改革で、英語の外部検定試験が一層活用されることになっており、生徒の 4 技能をバランスよく育成することが重要である。また、英語の「やり取り」の力を育成することも課題であり、そのための指導方法を英語科職員で研究、共有することが求められている。

A. 平成 29 年度

1. 平成 29 年度の研究テーマ

平成 29 年度は、研究テーマを「深い理解に基づく英語による発信力を高める学習活動と評価」として、2 年次のコミュニケーション英語Ⅱの授業で実践を進めた。実践するにあたって、「深い理解」「発信力を高める学習活動」を次のように考えた。なお、授業実践は英語科若手教員 3 名が中心となって進めた。

深い理解	<ul style="list-style-type: none">○「深い理解」は、理解が難しい語句や文を、自分の言葉で説明ができる程度にまで理解している状態とする。○「深い理解」を促すために、発問や視覚教材を工夫し、英文が伝える内容を具体的にイメージさせたり、自分の経験と結び付けて考えさせたり、本文に書かれていないことを推測させたりする。
発信力を高める学習活動	<ul style="list-style-type: none">○発信力を高めるための目標とする活動を Retelling と Summary Writing とする。また、Retelling を行う前に Reproduction を行い、語句の input を行う。○読んだ内容を簡潔かつ分かりやすく伝えるように指導する。そうすることで、難しい語句を自分の知っている語句に置き換えて伝えることが期待できる。

2. Reproduction と Retelling

実践を進めるにあたって、Reproduction と Retelling を次のように捉えた。

- Reproduction : 読んだ英文を再現する活動。主に、語句や様々な表現のインプットを目的とする。
- Retelling : 読んだ内容を自分が知っている語句で伝える活動。自分が知っている語句を実際に使えるようにすることを主な目的とする。

3. 授業展開の具体化

基本的な方針や主な活動を決めてから、具体的にどのように授業を進めるかを考えた。次の表は授業展開の基本的な考えをまとめたものである。教材は、文英堂「English Communication 2」の Lesson 7 Part 2で、「自分自身を形成し、生き方を決める上で選択は重要であり、それは一人ひとりが生まれながらにもっている欲望に直結しているからなのかもしれない。」という内容である。

学習段階	学習活動
1. 内容理解	①新出語句の意味等の確認と発音練習 ②新出文法の確認 ③内容確認と音読練習
2. <u>Reproduction</u>	①Q&A ・生徒に質問に答えさせながら、内容に関連する視覚教材を黒板に掲示し、本文の内容をイメージ化させる。 ・生徒の答の中にあるキーワードを板書する。 ②Reproduction ・モデルを見せる。 ・ペアワーク。黒板の視覚教材やキーワードを見ながら、読んだ内容を再現させる。(教科書は閉じるように指示する。) ・1～2名の生徒を指名し、 Reproduction をさせる。
3. <u>発問による読みの深化</u>	①生徒の「深い理解」を促すために、理解が難しい文や本文中に記載されていない事項に関する発問する。 ・長い文や文構造に注意すべき文を取り上げ、その文が伝えている内容が何かを問う。 質問例 Can you explain the next sentence in your own words? ・自分の経験と照らし合わせて考えさせる発問をする。 質問例(1)What choices did you make a. when you took an entrance exam for high school? b. when you chose an experiential learning program in the school trip to Taiwan? (2)Then explain an innate desire using your examples.
4. <u>Summary Writing</u>	①summary questions ・ Summary をしやすくするために3つ程度の質問をする。 質問例(1)What is this part about? (2)What is an ‘innate desire’? Explain it using your experience. (3)What was the experiment with infants like? What was suggested? ②口頭での Summary ・モデルを見せる。 ・ペアワーク。互いに読んだ内容を Summary させる。(教科書を閉じるように指示する。) ③summary writing ・口頭での Summary を踏まえて、 Summary を書かせる。

4. 評価

評価は、生徒に相互評価を行わせた。

評価シート（話すこと）：

相手の **Summary** を聞き、1～3の項目についてできていると思ったら、
左の空欄に○を記入してください。

読んだ文章の内容を簡潔かつ分かりやすく伝えることができた。

1. Part 2 のトピックを伝えることができた。

2. An innate desire について、自分の例をまじえて説明できた。

3. 幼児の実験について述べることができた。

相互評価の結果を見ると、ほとんどの生徒が1～3の項目すべてに○をつけていた。このことから、口頭での **Summary** はほとんどできていたと考えられる。しかし、一方で、**Summary** をする内容はお互い分かっているため、英語の誤りが多かったとしても、相手が言っていることを理解できた可能性も高い。評価については、その信頼性を高めるために教員が評価をして、**Summary** の内容や英語の正しい運用などを確認する必要があるだろう。

B. 平成 30 年度

1. 平成 30 年度のテーマ

1 学年を中心に、英語による「やり取り」の力を高めることを目的として、Retelling および 帯活動 “How was your weekend?” に取り組んだ。

2. Retelling を「やり取り」として行うための工夫

平成 29 年度の取組みを活かして、「やり取り」の力を育成するために Retelling は有効であろうと考えた。しかし、教科書で読んだ内容をペアで Retelling する活動には information gap がないという点が課題となった。そこで、Retelling 後に、読んだ内容についてどう思ったかをペアで質問しあうことで「やり取り」をさせることにした。また、本文を読んですぐにその内容を話させると、Reproduction になってしまうことが考えられたので、前回の授業の復習として行うこととした。

指導の手順は次のとおりである。

① 前回読んだ内容に関する Q & A

本文の内容に関する質問をして、生徒が答えた英語の中からキーワードとなるものを板書する。Retelling をしやすくすることが目的なので、この目的に沿った質問をすることが必要である。

② Retelling のモデル

板書したキーワードを使って Retelling のモデルを示す。生徒にモデルを示すことで、英語表現、話す内容の順序などのヒントを与え、難易度を下げることが目的である。

③ 1 回目の Retelling

ペアで Retelling を行わせる。Retelling は教科書を閉じて行わせる。

④ 2 回目の Retelling + やり取り

Retelling をした生徒に、“What do you think about [this part など]?” と質問するように指示をする。教師は、生徒に始めさせる前に、例としてモデルを示す。

⑤ 教師から生徒への “What do you think about ~?”

2 回目の Retelling が終了したら、教師は数名の生徒に “What do you think about ~?” と質問して、自分の考えを答えさせる。

3. 帯活動 “How was your weekend?”

ルーティーン活動として、“How was your weekend?” と質問し合ってやり取りを行う活動を、週の最初の授業で行った。「やり取り」の力を育成するために、相手が言ったことに対して質問をするように促した。質問をするように促した理由は次のとおりである。

- ・やり取りの形には、相手が言ったことに対して「質問する」「新しい情報を加える」「自分の意見を述べる」などのいろいろなパターンがある。
- ・留学生に本校生徒の英語力について課題を聞いたところ、「コミュニケーションをしようという意欲があり、話す英語も短くシンプルな文ではあるが理解できる。しかし、ひとつの話題について話を続けることが難しいようだ」との指摘があった。
- ・質問する（口頭で疑問文をつくる）ことがスムーズにできる生徒が少ない。
- ・質問はやり取りを継続するために有効な手段のひとつである。

想定したやり取りの例

A: Hi, how are you?

B: Good. How was your weekend?

A: It was great. I went shopping and had a good time.

B: What did you buy?

A: I bought a T-shirt. How was your weekend?

B: Nothing special. I practiced soccer as usual. But when the practice was over, I played games with my friends.

A: What game do you often play?

B: I like shooting games.

4. あいづち

やり取りをする中で、あいづちを打つように指導した。次に示したのは、生徒に提示したあいづち表現の一部である。

That's true.

You're right.

Absolutely.

That's good!

That's great!

That's amazing!

That's terrible!

That's a shame.

That's too bad.

Really?

Are you serious?

You're kidding!

5. 生徒の状況

(1) 取組前

帯活動“**How was your weekend?**”を初めて行う際に、相手が言ったことに質問をするように指示をし、どの程度やり取りができるかを事前に見ることにした。

ほとんどの生徒は、相手が言ったことに対して質問するまでにだいぶ時間がかかっており、相手が言ったことにスムーズに質問をすることができなかった。30秒間やり取りをすることも難しい状態であった。

(2) 取組後

9月から、帯活動“**How was your weekend?**”を開始した。活動は、週の最初の授業で授業開始直後の5分程度で行った。また、**How was your weekend?**と聞かれたときの答え方や、あいづち、様々な表現、相手が述べたことに対する質問などをその都度紹介し、練習した。生徒の様子は次のとおりである。

○10月：多くの生徒が1分間程度のやり取りができるようになってきた。質問もややスムーズになってきた。また、相手が言ったことに対して質問をするだけでなく、自分の経験や考えなどを述べる生徒も出てきて、やり取りのバリエーションが増えてきた。生徒が使う文法事項や表現も多様になってきて、現在完了形、受動態、to不定詞などを使う様子が見られた。ただし、文法的な誤りは多く、1文も短いものがほとんどである。

○11月：GTECのspeaking testを実施した。その結果、前年度生の平均点より11ポイント以上高くなった。また、年次全体のレベルが前年度生のレベルから1ランク上がった。

○12月：やり取りができていのかを見るために **performance test** を行った。トピックは日ごろ行っている “**How was your weekend?**” とした。生徒にペアで話をさせて、それぞれの生徒について、次の評価規準で観察、評価した。

①相手が言ったことに対してタイミングよく質問できた。

②相手の質問に、適切に答えることができた。

その結果、1分以上のやり取りを行ったペアは100%、タイミングよく質問できた生徒の割合は80%であった。

6. 今後の取組み

「やり取り」の力の育成のために **Retelling** や “**How was your weekend?**” を取り上げたが、実践した教員は、これらの活動が「やり取り」の力を育成する上で効果があると実感している。1月に行った **GTEC** の3技能の試験では、**Writing** においても前年度生よりよい結果であった。**Writing** については特別な指導を行ったわけではないので、スピーキング活動を充実させたことの派生効果だと考えられる。

Retelling や “**How was your weekend?**” が発信力を高めるうえで効果があると考え、平成31年度もこれらの活動を継続して行っている。特に新2年次では1年次で行ったことを、語句・表現や文法面および活動形態も含めてさらに充実させるために、さらに多くの語句や表現をインプットし、それらを使うように促したい。

また、令和元年度は、2年次の英語選択科目でディベートを行うことにした。これは生徒のスピーキング力が伸びたことの影響が大きく、このおかげで授業展開の可能性が広がったと感じている。生徒たちには、日常生活や社会の中の問題についてディベートをすることで、様々な語句や表現を身に付けるだけでなく、論理的な考え方も学んでほしいと考えている。前期に行うディベートの題材は次のものを予定している。

- **Homework should be abolished.**
- **Convenience stores should not be opened 24-7.**
- **Zoos should be abolished.**
- **Volunteering should be a high school graduation requirement.**